

※※※記 事※※※※※※※※※※※※※※※※

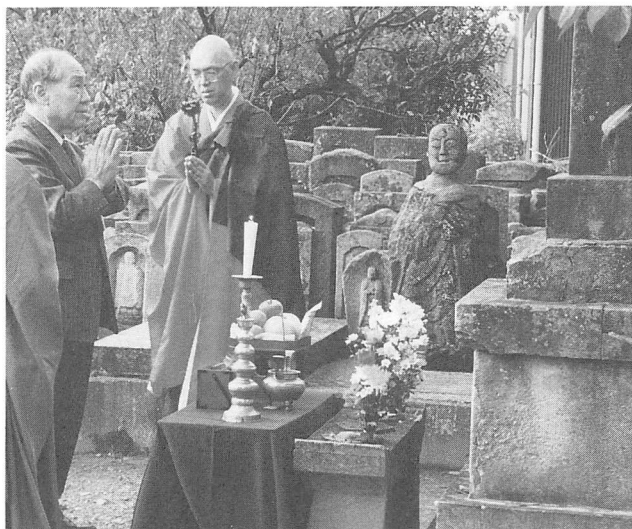
消 息

日蘭交流四百年物故者法要

多 留 淳 文

去る平成十二年十一月十九日(日)日本最初の蘭方内科医、吉田長淑(一七七九—一八二四)の墓がある石川県の曹洞宗棟岳寺(金沢市石引二丁目四一六)において表記の法要(実行委員長 多留淳文)が行われた。

日本医史学会としては、蒲原 宏理事長が出席され、吉田長淑墓前に焼香(写真)、法要では祝辞を述べられた。その後、本会理事寺畑喜朔博士が、吉田長淑先生の生涯と題する特別講演を行い、参会者に多大の感銘を与えた。参会者は六〇名、本学会員は白崎昭一郎北陸支部長ほか四名の参加があった。法要終了後、石川日蘭協会が結成され、毎年行事が開かれることになった。



吉田長淑墓前に焼香する蒲原宏理事長

日蘭交流四百年物故者法要

平成十二年十一月十九日(日)

一、日蘭交流四百年物故者法要

御墓参り(吉田長淑墓前)

献茶(本堂にて)

代表五名

裏千家 井奈 宗孝氏

於 棟岳寺
午後一時半

物故者供養読経
式辞 オランダ総領事館総領事

ヤン デフリース氏

金沢市長

山出 保氏

日本医史学会理事長

蒲原 宏博士

一、特別講演

演題 吉田長淑先生の生涯

午後三時

一、懇親会

前金沢医科大学教授 寺畑 喜朔博士

午後四時

日蘭交流四百年物故者法要実行委員会

実行委員長 多留 淳文

実行委員 岡部佐武郎

平田富美子

坂井 昭保

赤座 数男

高村 千波

江間富喜子

在田 全龍

棟岳寺住職

事務局連絡先 電話〇七六一二二二一―二六四七

在田 全龍

日本医史学会関西支部平成十二年秋季大会

長門谷 洋治

日本医史学会関西支部平成十二年秋季大会は同年十一月十日(日)に第四十回医学史研究会(小松良夫代表幹事)との合同総会として大阪府保険医協会(大阪市浪速区)で行なわれた。今総会の特徴は「日本学術会議第七部 医学史・医学研究連委員会」とも共催になったことで、当日午後ミニ・シンポジウム「医学資料の保存と管理」と題して実施された。本テーマについて以前より活発に発言・実践しておられ、今回のシンポの推進者でもあった寺畑喜朔氏が座長をつとめられ、最初に「本シンポジウムの主旨」につき述べられた。シンポジストは奥沢康正、松田武、三宅宗純、小松良夫の各氏で、松田氏は「大阪大学医学部『医学史料室』」といういわば公的な機関のそれについて、小松氏は個人で「杏(あんず)資料館」なる二階建ての資料館を建て、結核関係の資料・文献を集めていたのを一般に公開する準備を進めている。三宅氏は代々受け継がれてきた膨大な文書、図書を如何に整理・保管していくかにつき、奥沢氏は眼科関係中心の医療機器をJRの貨物車の払い下げを受けて収納、これをコンピュータ管理するなど収集の発想そのものが頭抜けている。その後の討論では古書の虫食いの予防につき、内藤記念くすり博物館の稲垣裕美氏より専門的な助言をいただくなど充実したもの